令和３年４月 26 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立横浜緑園高等学校

令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の資質・能力を向上させるため、ICT を活用した組織的授業改善に取り組む。 ②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。	①教員の ICT 活用能力向上を目指し OJT や研修を継続的に実施するとともに、ICT 環境の整備をすすめる。 ②新学習指導要領に対応した教育課程編成を継続して検討し、魅力ある教育課程を編成する。	①研修や授業見学等を通して ICT の活用事例を蓄積して授業改善につなげるとともに、ICT 環境を整備する。 ②課題を抽出して検討し、本校の魅力や単位制普通科としての特徴を生かした教育課程を編成する。	①ICT の活用事例を蓄積･整理し、校内研修を複数回実施できたか。また、ICT 環境を整備できたか。 ②課題に対し十分な検討を加え、魅力ある教育課程を編成できたか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。 ②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 ③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。	①生徒の規範意識を高めると同時に、保護者への情報発信や密な連携により、協力体制を構築する。 ②日常的に生徒情報を共有する体制を構築し、外部機関とも連携した教育相談体制を構築する。 ③感染症対策に配慮した上で学校行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④感染症対策に配慮するとともに安全を確保した上で、部活動の加入率を高め、活動の活性化を図る。	①頭髪・服装指導、登下校指導の際は、マチコミメール等を活用して保護者の協力を求めるなど連携した指導を行う。 ②SC と各年次の教育相談担当で定期的に情報を共有し支援へとつなげる。情報共有会を開催し全職員で情報を共有する。 ③体育祭や文化祭等の行事において、感染症対策を確実に実施するとともに、生徒の主体的な取組を促す。 ④生徒会役員等と協働して生徒に働きかけ、部活動への加入率向上や活動の活性化を図る支援を行う。	①保護者に情報発信ができたか。保護者との協力体制を構築し、生徒の規範意識を高めることにつなげられたか。 ②生徒情報を共有する中で、SC や SSW の活用や外部機関との連携など生徒一人ひとりの状況に応じた適切な支援ができたか。 ③各行事後のアンケートにおいて、８割以上の生徒から達成度及び満足度を得られたか。 ④活動前後の消毒等、感染症対策を確実に実施したか。部活動加入率を高めることができたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①生徒の進路学習と希望進路実現に向けた教員の指導体制の充実を図る。	①本校の進路状況等を踏まえた進路ガイダンスや講習を実施するとともに、ICT を活用した進路指導を行う。	①教員対象の研修会を開催するなどして進路情報を共有できたか。また進路指導に ICT を活用できたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②生徒が学力の向上と学習習慣の見直しを考える働きかけを行い、進路実現につなげる支援を行う。	②１・２年次においては年３回全員受験、３年次においては年３回希望者対象の外部模試受験の機会を設定し、学習に対する意欲を喚起し学習方法の改善に結びつける。	②教育支援システムを活用し、１・２年次においては、教員の働きかけを通じて、意欲的に模擬試験に取り組み、成果を上げることができたか。３年次においては 20 人以上の生徒が受験し、その結果を進路指導に役立てることができたか。					
4	地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①本校の教育力を地域に還元し、地域に貢献できる機会を充実させるとともに、地域の教育力を本校の教育に生かす。 ②本校の魅力と特色を具体的に発信することで、地域に信頼される学校づくりを行う。	①感染症対策に配慮した上でボランティア情報を生徒に発信し、多くの生徒の参加を実現する。 ②感染症対策に配慮した上で広報活動を行い、本校の教育活動を具体的に発信するとともに、環境整備をすすめる。	①地域との連携･協働により７割以上の生徒が自己肯定感や達成感を得ることができたか。 ②中学校訪問や学校説明会等で本校の特色を効果的に伝えることができたか。また、ホームページ等を活用し、効果的な情報発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故･不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①感染症対策を踏まえた学校の衛生管理体制と防災体制を整備する。 ②分教室受入れ準備を進め、インクルーシブ教育の基礎を確立する。 ③私費会計処理、行政文書管理や入試選抜等において、職員の協力体制を機能させ、適切な業務を実行して、事故･不祥事を防止する。 ④感染症対策を踏まえたスリムな業務体制を構築し、昨年度より休暇取得率を向上させる。	①清掃活動･消毒作業を徹底して教室等の衛生環境を整備するとともに、感染症対策も踏まえた学校防災活動マニュアルを策定する。 ②受入れ計画を整備するとともに、インクルーシブ教育についての協力体制を構築する。 ③職員の協働により、事故･不祥事防止を図る。情報提供や研修等により当事者意識を高める。 ④業務メールやリモート等のオンライン化を進め、グループや PTA 業務のスリム化を図る。	①活動･作業終了後に点検を行い衛生管理体制の維持が図れたか。感染対策を織り込んだ防災活動マニュアルを完成させたか。 ②受入れ体制を整備できたか。また、インクルーシブ教育に関する情報提供や研修会等を実施できたか。 ③適正な業務執行により事故･不祥事をゼロにできたか。研修等により、当事者意識を高めることができたか。 ④業務のオンライン化により、昨年度より休暇取得率を向上させたか。					